

令和 4年 11月21日

東員町議会 教育民生常任委員会委員長 川瀬 孝代 様

東員町議会教育民生常任委員会 委員 山崎 まゆみ

教育民生常任委員会 研修報告書

研修期間	<u>令和 4年 11月 9日（水）～11月10日（木）</u>
研修（視察）先	① 南木曾町「妻籠街並み交流センター」・・・11月9日 ② 箕輪町役場 ・・・11月10日
目的（テーマ等）	① 小学校統合による跡地利用、人口減少対策（婚活支援） ② 地球温暖化対策
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページ

《研修概要》

① 【妻籠町並み交流センター】

旧妻籠小学校跡地に建てられた、地域の交流・妻籠宿発信の拠点として活用される施設。地域材の木曽ヒノキやカラマツを使用し、トラス構造（部材どおしを三角形になぎ合わせ、接合部をピン接合にしたもの）を用いて約15メートルの大空間を作ったもので木組みの見事な曲線美と木の香りの建物。

住民どおしや外部との交流活動の拠点。

【人口減少を抑制し若者が戻ってこられるまちづくりのための総合戦略】

- 子育て世代が戻ってこられる雇用の創出
- 子育て世代の UIJ ターンの促進
- 結婚支援

② 箕輪町地球温暖化対策について

『町民・事業者・行政が一丸となって2030年度実質60%削減を目指す』

（※政府は50%削減）

- （1）省エネ対策とゼロカーボン推進
- （2）再生可能エネルギーの導入・活用
- （3）サステナブルな地域環境づくり

★家庭や個人

- ・家庭のエコ状況やエネルギー使用量の見える化をする
- ・ごみ削減と資源の分別の徹底化
- ・省エネ家電への買い替え、太陽光発電設備や蓄電池設置の推奨
- ・住宅を ZEH（ゼッチ＝高断熱住宅、再生可能エネルギー導入等）
- ・自動車を電気自動車（EV）に

★事業者

- ・事業所のエコ状況の見える化
- ・エコドライブの実践（ゆっくり加速、ゆっくりブレーキなど低燃費）
- ・社内の環境学習、セミナー
- ・省エネ設備の導入、再生可能エネルギー設備
- ・徒歩や自転車、公共交通による通勤
- ・緑化、森林や水源の保全活動
- ・事業所を ZEH（ゼッチ）、ZEB（ゼブ）に建て替え
- ・自動車を電気自動車（EV）に
- ・DX 化を推進

★行政

- ・「箕輪町地球温暖化対策実行計画」の実践
- ・公共施設の CO2 排出量 60%削減目標
- ・再生可能エネルギーや PPA（電力販売契約モデル）導入の促進
- ・公用車の EV 車への切り替え、公共施設の LED 照明、IH 化への切り替え
- ・公共施設を ZEH（ゼッチ＝高断熱住宅、再生可能エネルギー導入等）

《活用と所感》

① 旧妻籠小学校跡地に、「地元の木を地元で加工して、地元の大工さんが建てる」をテーマに建設され、木の香りが漂う、美しい木組みの曲線美の木造平屋建ての多目的ホールは素晴らしい施設でした。

南木曾町の人口減少と向き合い、危機感を持って地域の維持のための総合戦略、政策形成をされている内容の具体的な説明を受けました。

出生数の減少等による人口自然減の拡大と若者を中心に職業や学業を理由とした町外への転出超過が続く、少子高齢化が進展しているのは、全国的にどこの自治体もほぼ同じです。南木曾町では、調整のあらゆる分野での取り組みを総動員し、出生率・出生数の増加や人口の流入促進・流出抑制につながる政策を重点的に推進されています。

当面は避けられない人口減少という現実、正面から向き合い、地域での生活が守られ、町民一人一人が安全に安心して暮らせるとともに、持続ある発展をしていけるような活力ある社会づくりに取り組んでみえて、総合戦略のひとつひとつを参考にさせていただけると思いました。

「歴史的資源の保存」で観光を拡大することや、移住者の受け入れと定住サポートのために、「相談窓口の充実と情報発信」に特に力を入れている点は、わが町も参考にさせていただけます。他には、南木曾町を研究のフィールドとしている「大学・つながりのある企業、高校と連携」して関係人口の拡大によるまちづくりを進めていることで、少しずつながら成果が表れているとのこと、参考にさせていただけると幸いです。

「結婚を希望する人がその願いをかなえるような支援」については、東員町はまだ予算化されていませんが、南木曾町では広域自治体で連携して予算化して取り組まれています。「多様な出会いの場の創出」「経済的要因と就労環境の改善」「結婚と向き合う機会・きっかけづくり」などの政策に、東員町も予算化されると未婚・非婚対策で成果を出せると思うため、町民のニーズを調査研究しながら、東員町の実情に即した実践をしていければと思います。②箕輪町が「ゼロカーボンシティ宣言」後は具体的に町民の認知、理解度を高めるための啓発活動、推進体制を展開されている中で、ユニークであると思われるのが『箕輪町健康ポイント事業』です。町民推しウォーキング推奨し、ゼロカーボンに向かって日常生活を送ることである、というような提唱をされ、さらにそれを実行できた町民にはポイントが付与され、ポイントがたまれば1,000円分の地域クーポン券がもらえる、というように町民一人一人が気軽に楽しく取り組めるような取り組み「エコ活しながら健康づくり」というのは、ぜひ東員町も参考にさせていただけると良いと思います。『2050ゼロカーボンみのお推進事業』のために、町民や企業による「町地球温暖化対策特別委員会」の立ち上げから始められて、町の行動指針となるアクションプランの検討を進めていかれたという流れは、これから計画を策定する東員町も参考にさせていただけると幸いです。『もったいないキャンペーン+（プラス）』など、町民にとってわかりやすく取り組みやすい取り組みであり、脱炭素社会のターゲットである2050年という時間的視野は超長期ですが、我慢する政策でなく、生活を豊かにする取り組みであるという認識で進めると良いというアドバイス（事前質問に対する回答）はとても納得できます。生ごみ堆肥化の取組は断念された箕輪町に対し、東員町は生ごみリサイクル思考の会の活動のおかげで堆肥化は継続している点は、箕輪町に先行しており、誇らしく思いました。今回の教民視察研修は参考にさせていただく点多く、有益でした。